

特集 頭巻 組合紹介

呉本通商店街振興組合

呉中央地区の活性化 ～呉本通商店街への想い～

理事長
内野 静男 氏



銀行街として栄えた呉本通商店街の成り立ちと現状

明治19年、呉港に鎮守府が設置された事を契機に、呉の中央地区には、次第に、人やモノが集まるようになり、大変な盛況ぶりでした。その後、幾度の変遷の後、昭和23年、任意組合「呉本通商栄会」を結成したことから徐々に組織化も進み、昭和42年、「呉本通商店街振興組合」が誕生、当時は、国道185号線を挟んで両側の歩道約1kmにわたり、商店街及び金融機関が立ち並び、呉のメインストリー

トとして栄え、両サイドの山側住宅街から、多くの人が集まっていました。しかし、呉市の主要産業である造船業衰退の影響などから、商店街から金融機関や飲食店が徐々に撤退を始め、さらに平成に入り、呉駅南部に大型商業施設や「大和ミュージアム」、「てつのかしら館」が建設されると、呉中央地区への来訪者は年々減少するとともに、来街者にとって回遊する魅力も乏しくなり、いわゆる負の連鎖の状況となってきました。さらには、呉駅南部に比べ、国道で分断されて東西に分かれた商店街の統一



感は確保できないまま、約25%もの空き店舗に甘んじているのが実情です。

「かわら版」で個店同士をもっと身近に

店舗の移り変わりの影響で、家族のような関係性にあった商店街にも変化が見られるようになり、隣の店舗がどんな事業をやっているかわからないという声に対して、店舗同士が再びもっと身近な関係になってもらうため、3年前より、「かわら版」の毎月発行を始めました。編集には、居酒屋や小売店の店主、金融機関の職員など10名程の若者達が携わってくれています。内容としては、新規店舗の紹介や年末年始休みの情報のほか、喫煙場所、近隣駐車場の料金相場、商店街周辺で違反しがちな交通ルールをはじめ、生活の場としてあったら役に立つ、中には、私も知らなかった分かりづらい

情報が入るなど、若い人の発想が店舗間のコミュニケーション再構築の大きなきっかけになっています。

商店街の回遊性再び ～7商店街と呉中央地区～

呉駅南部の観光スポット周辺に留まっている年間100万人を超える旅行者を取り込む上でも、まずは商店街店主と地域住民とのつながりを強化し、来街者の回遊性を取り戻したいと考えています。そんな時、まちゼミがその有効な手段になると広島県商店街振興組合連合会から紹介を受け、これに取り組みたいと思いました。そこで、事務局のバックアップをもらいながら一軒一軒歩き、直接話を聞いて回することで、組合員の気持ちを丁寧に確認し、ようやくこの3月に「まちゼミ」の開催に辿り着きま



した。大型商業施設にはない、個店店主と顔見知りの関係づくりで、再び地域住民が回遊してくれる魅力づくりに取り組みます。

また、お客様目線からすると呉中央地区商店街が一体となった取り組みが必要だと感じ、昨年から、それぞれ別日に開催していた「土曜夜市」を同日開催することとしました。土曜夜市マップの作成・配布や、駐車券の共同管理を行うなど、呉中央地区商

店街の若手で構成される任意団体「呉から盛り上げ隊」の活躍や、青年部前会長が設立した「(株)トゥモロークラブ」による運営サポートなど、他団体との協力体制も徐々に整い、少しずつ来街者が増加しています。

今後は、広島市中心部の商店街組織のように、呉中央地区の商店街組合が一体となって呉中央地区の魅力発信や商店街の在り方を考えていく組織体制を整え、成功するかは未知数かも知れませんが、他での成功事例に学びながら、とにかくやってみる、失敗を恐れずやってみて、改善する。そういうサイクルを回していきたいと考えています。呉中央地区商店街が、足腰の強い組織になっていけるよう、次世代の担い手とともにチャレンジしたいと思います。

呉本通商店街振興組合

呉市本通2丁目6-4
TEL：0823-21-8943

呉まちゼミ Facebook 検索